共育事業｜個別カスタマイズ・教科横断

英語への意欲が、国語の力にもつながった

教科を越えて活きる「読み取る・整理する・伝える」を育てた 3 か月

「英語を学びたい」という本人の意思を起点に、3 か月間の個別プログラムを実施した事例です。英語を覚えることだけを目的にせず、実際の場面を想定した対話を通じて、相手の意図を読み取り、自分の考えを整理し、伝わる言葉を選ぶ力を育てました。その力は英語だけに閉じず、国語を含む他の学びにもつながっていきました。

BEFORE｜取り組み前

本人には「英語を学びたい」という明確な意思がありました。一方、単語や文法を覚えるだけでは、実際のコミュニケーションで使う力にはつながりにくいため、本人の興味を具体的な場面と結びつけ、学んだことを使ってみる機会が必要でした。

VIEW｜Uni-One の見立て

英語と国語は別の教科に見えても、相手の意図を読み取る、自分の考えを整理する、言葉を選んで伝えるという土台は共通しています。そこで、英語への意欲を入口に、教科を越えて活きるコミュニケーションの力を育てる 3 か月間を設計しました。

教科を越えて育てた 4 つの力			
1　意図を読み取る	2　考えを整理する	3　言葉を選ぶ	4　相手に伝える

ACTION｜本人の意思を起点に実施したこと

Customize	Real Scene	Reflection
アセスメントと対話をもとに、本人の興味や理解の仕方に合わせて内容を設計。決まった教材を一律に進めるのではなく、反応を見ながら課題と進め方を調整しました。	実際に英語を使う場面を想定し、「何を伝えたいか」「相手にはどう聞こえるか」を一緒に検討。知識の確認だけでなく、やり取りの目的や伝え方まで扱いました。	対話の中で、読み取る・整理する・伝える過程を振り返り、次に試す表現や学び方を具体化。3 か月間、内容を継続的に再設計しました。

AFTER｜表れた変化

- **英語を使って、自分の考えを伝えようとする姿勢が育った**
- **相手の意図を読み取り、考えを整理してから言葉にする場面が増えた**
- **英語で培った読み取り方や整理の仕方が、他の教科にも広がった**
- **取り組みを続ける中で、国語の模擬試験で初めて偏差値 60 以上に到達した**
- **一つの教科の学びが、学び全体の自信につながった**

英語への意欲を大切にしながら土台となる力を育てたことで、学びの変化が国語にも表れました。

この事例から見えたこと

読み取る、整理する、言葉を選ぶ、相手に伝えるという力は、一つの教科だけに使うものではありません。本人の「やってみたい」を入口に土台となる力を育てることで、その変化は英語から国語へ、さらに学び全体へ広がります。Uni-One は、教科を分けて教えるだけでなく、複数の学びをつなぐ力を一人ひとりに合わせて育てます。

※個人が特定されないよう、氏名・学校名・学年等は掲載していません。内容は保護者の確認・了承を得たうえで掲載しています。模擬試験の結果は本人の学習全体によるもので、本支援のみの効果を示すものではありません。変化の表れ方には個人差があります。